うたと打楽器による音楽劇

山の音楽舎

ラッセのにわで

演出/伊藤多恵 原作/エルサ・ベスコフ 訳/石井登志子 台本・作曲/川中美樹



ラッセは
お父さんにもらったボールを持って
庭へかけだしていきました
ところが・・・
ボールはころころ転がって
かかしさんにきいても
キャベツ夫人にきいても
見つかりません
はたしてボールは
見つかるのでしょうか

うたと打楽器アンサンブルでおくる
素朴で心温まる音楽劇

おうたが
おもしろかった。
もういっかいみたいな。
(6才)

こんな森や畑が
あったらいいなぁ。
実のなる木を植えたいなぁ
(大人)

子どもたちがすんなり
溶け込むファンタジー。
あぁ〜自然と子どもって
つながってるんだ。(大人)

生の舞台だからこそ
醸し出すことのできる
おいしい空気を手渡すこと
子どもたち自身が感じ 想像し 表現する
喜びに出会う手助けをすること
舞台を通して子どもたちの心に
豊かなたねをまくこと
これが私たちの願いです



"夢見る力"を 子どもたちに!

くすくすあはは・・・♪ おもしろうたやことばあそびを楽しんだあとは、ゆったりほっこりファンタジーの世界へ。人のからだと声、思わず聴き入るグロッケンや笛・太鼓の柔らかい響き、それに自然のものにこだわって創った小道具たちが紡ぎ出す <ハーモニー> をお楽しみください。

作品詳細はこちら↓